

■このコーナーを担当したのは、

わたなべ りえ まくだ
渡辺 理恵さん（蒔田）

絵本の世界へ…心豊かな子どもたちを信じて

子どもたちの心の健康を願ひ、若いお母さんの子育て支援や虐待防止の啓発になればと、幅広い活動をしているのがボランティアサークル『未来ネットワーク』の皆さんです。先日はアルテリオで、イベント『キッズフェスタ』を開催。リズム遊びや模擬店など、大勢の親子連れなどで賑わいました。今回は、この『未来ネットワーク』の活動を紹介します。

みんなで子育てを

『未来ネットワーク』の代表者は、いずみ保育園（羽方）の園長先生でもある栗原ひろ子さん。約30年間を子どもたちとともに過ごし、最近は、孤独な親による間違った子育てや、年々増える青少年犯罪の報道に胸を痛めていたそうです。平成13年、同じ思いを持つ近所の友人などと同サークルを発足させました。同サークルの主な活動のひとつが、未就学児とその保護者を対象に、月一回実施する『青空保育』。樋口の鷹巣団地内にある公園にビニールシートを広げて、青空の下で絵本や紙芝居の読み聞かせ、ゲーム、リズム体操などをを行います。回を重ねる度に参加者も増え、子どもたちの笑い声や保護者の安心した笑顔が広がりました。今では毎回20組ほどが『青空保育』に参加し、交流を深めています。

『青空保育』以外にも、子ども会や児童クラブなどから依頼があれば出かけて行き、幅広く活動しています。内容は、子どもたちと一緒に竹馬・お手玉などの伝承遊びや鬼ごっこ・縄跳びなどの遊び、読み聞かせな

ど。特に読み聞かせはとても大切な活動として、会員の皆さんが力を入れていそうです。本離れが進み、ゲームやテレビ、パソコンが生活の一部となっている現代。心を健やかに育むには何かが足りないものばかりです。そのような中で絵本は、想像力や思いやりを育て、また、読み手とふれあうことにより心と心が通じ合い、子どもをより心豊かにしていると思いました。

読み聞かせで伝えたいこと

また昨年度からは、毎週金曜日に河間小学校へ出向き、『読み聞かせ隊』の名前で読み聞かせを行っています。朝20分という短い時間ですが、会員たちは事前に絵本を何度も読み、子どもたちの期待に答えようと努力しています。実は私の子どもも河間小に通っていて、私の母は『読み聞かせ隊』の一員です。絵本を大きな声で読み、練習する母。思わず私も聞き入ってしまうほどです。過日、そんな母に児童たちからランチの招待が届き、一緒に給食を楽しみました。また、感謝の気持ちがいっぱい詰まった手

紙の贈り物ももらいました。手紙には、「今度は僕が読んであげるね」とあり、「私たちの思いが、子どもたちに確かに伝わっている」と実感したそうです。

「これからも、会員みんなと支えあいながら、子どもたちの成長と笑顔を大切に、母親のような気持ちで活動が続けたいですね」と語る栗原さん。皆さんもぜひ絵本を手にお子さんとふれあってみてください。お子さんはもちろん、きっと自分の心も温くなるはずです。

